10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。

京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記 vol.4

共汗部会　第1回まちづくり部会

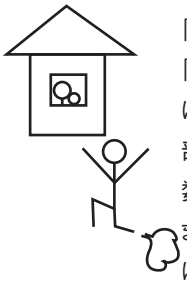
（都市計画・住環境・都市基盤分野）
主な議事：共汗部会の役割や次期京都市基本計画の構成等について意見交換
開催日：平成21年11月2日（月）
会場：消防局本部庁舎

レポーター 平井　陽さん

1984年　岡山生まれ
京都大学大学院工学研究科2回生。「京（みやこ）・未来予想図」市長賞受賞

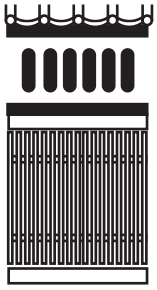
会議のポイント

POINT 1.
多岐に渡る分野、他部会との関係



この部会が対象とする分野は、他の部会が3～4程度であるのに対し、「都市づくり」、「景観」、「都市基盤」、「住宅」、「交通」、「消防・防災」、「くらしの水」・・・、と非常に多岐に渡り、「ソフト」に対する「ハード」分野を対象としています。この部会が対象とする分野全体を、限られた開催日数で議論するためには、知恵を絞らなければなりません。また、ハードとソフトをわけて議論することはできず、「他部会との関係をマトリックス形式で整理してみては?」というような意見もありました。

POINT 2.
優先順位をどうつけるのか



例えば町家が毎年2％ずつ減少していることは喫緊の問題であり、「10年という長いスパンでやるべきものと、緊急的なものを、どう仕分けるのか」、「先行して議論されている基本的な内容を整理したほうがよいのでは」といった意見がありました。

この会議を傍聴して、平井さんが思ったこと

例えば、環境、観光、産業など、他の部会で扱う分野と、このまちづくり部会で扱う交通の分野の関係のように、ハード分野は他の部会であつかう分野と非常に密接、表裏一体の関係があります。そこで、他の部会で議論されていることを踏まえながら、この部会で議論すべき内容や、政策の方向性を見出していかないと、「誰も利用しない施設」、「人の寄り付かない公園」みたいなものが出来上がることになってしまうのでは…、と思いました。

私ならこうする！未来の京都に向けた平井さんの提案

「まちづくり」と言えば、昔ならば「ビルを建てる」、「道路を作る」、「鉄道を走らせる」・・・といった近未来的で、便利なまちをいかにつくるのか、というところに重点が置かれていたように思います。しかし、現代においては、「まちは歴史の中にあり、その継続性の中に息づいている」ものであると考えられます。町家の保存にしても、ただ単にファサードを美しく守るのではなく、そこに京都の人々の生活があることがなによりも大切なことだと思いますので、このような視点で議論していただければ、と思います。

U35については、こちらをご覧下さい。⇒　http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行：京都市　編集：未来の担い手・若者会議U35